

2014年8月1日 発行

八重山漁協では、2007年から未熟で価格の低い小型魚の漁獲を避け、資源を合理的に利用していく目的で体長制限に取り組んでいます。今年で取り組み開始から8年ですが、その達成状況はどうでしょうか？

## 対象魚種はなんだったっけ…？

### 制限体長 20 cm

シルイユー類 タコキューミーバイ



シロダイ ナミハタ

タマン類 (フェフキダイ科フェフキダイ属)



イソフェフキ ハマフェフキ

### 制限体長 25 cm

ダルマー ブダイ類 (ブダイ科)



ヨコシマクロダイ ナンヨウブダイ

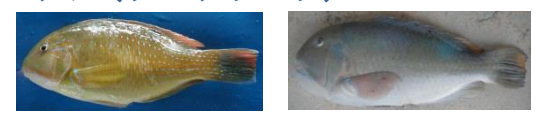
ハイヤー、ユダヤー類 長尾ミーバイ



ヒトミハタ バラハタ

### 制限体長 30 cm

マクブ (シロクラベラ)



メス オス

### 制限体長 35 cm

アカジン類 (スジアラ属)



スジアラ (マーアカジン) コクハンアラ (クルバニ)

現在八重山漁協では、あかじん類、まくぶを中心にイノーの魚に対して35～20cmの漁獲制限体長を設定しています。魚種によって異なっているのは、それぞれ卵を産めるようになる体長や、値段が高くなるサイズが異なるためです。この制限の目的は、少なくとも1回は卵を産ませてから獲ることで次世代を残していけるようにすることと、値段が付かないような小さな漁獲物を減らすことです。また、イノーの魚以外にも、マチ類やシャコ貝類、イセエビにも沖縄県漁業調整規則などによる制限体長があります。

### その他のルール (一部)



あかまち  
30cm



しちゅーまち、  
まーまち等  
20cm



いせえび類  
(眼の間から尾の先まで)  
18cm



ヒレジャコ  
20cm

## 達成状況はどうなっているの？

沖縄県水産海洋技術センターでは、県漁連と八重山の市場で漁獲物の体長を測定しています。そのデータから、漁獲制限体長の達成状況を推定することができます。つまり、水揚げされた魚の種類ごとに、どれくらいの割合が制限体長を守っていたかを推定するのです。以下に示す表は、主要な魚種の2008～2013年における体長制限の達成率(%)です。

制限体長	魚種名	2008	2009	2010	2011	2012	2013
35	あかじん (スジアラ)	88.7	88.6	94.6	86.1	78.4	69.4
	まくぶ (シロクラベラ)	93.4	91.8	96.1	94.9	77.9	96.1
25	はやー (ヒレグロハタ)	98.9	99.0	99.6	96.8	98.4	99.6
	あーがい (ヒブダイ)	97.2	98.2	98.6	98.5	98.4	99.2
	おーばちャー (ナンヨウブダイ)	98.9	98.1	98.2	98.3	99.3	99.0
20	たこキューミーバイ (ナミハタ)	99.5	99.4	99.4	99.1	99.1	99.6
	くちなぎ (イソフェフキ)	95.0	95.2	97.0	97.5	95.2	98.4

注目すべき点は、近年あかじんの達成率が低下している、つまり小型魚をたくさん獲っていることです。これには、最近あかじんの子供が増えていることも関係していると考えられますが、未熟な子供を獲らないよう、よりいっそう注意する必要があるといえます。また、制限体長が25、20cmの小型の魚種については、そもそも制限体長より小さな魚を獲っていないため達成率が高くなっています。こういった魚種の制限体長は、値段が付かないサイズの制限、という意味合いの方が強いと言えます。体長制限は、限りある資源を合理的に利用するための最も基本的なルールです。海人だけでなく、一般の人にも「心のモノサシ」を持っていただきたいですね。

